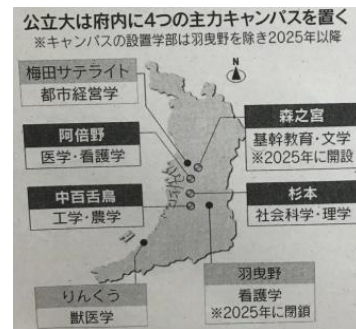


「大阪公立大」キャンパス 再開発の核に

来年4月、長い歴史をもつ大阪市立大は廃止され、大阪府立大と統合し「大阪公立大」となる。大学院時代、そして今も図書館でお世話になっている大阪市立大廃止は、なんとも悲しいかぎりだ。何のための大学再編なのか、日経新聞 22 日朝刊「開学迫る大阪公立大」下を読むと、結局は大阪の都市再開発の一環ではないかと思えてくる。記事を抜粋して紹介する。

公立大では 2025 年 4 月に森之宮地区に 1 年生の基幹教育を担い本部機能を持つ新しいキャンパスを整備する。あわせて既存のキャンパスも分野別に再編、25 年 4 月までに理学部や経済・商学部などが集まる杉本、工学部や農学部の中百舌鳥、医学の阿倍野と、大阪に 4 つの主力キャンパスができる。羽曳野キャンパスの看護学は 25 年 4 月より阿倍野に移る。中百舌鳥キャンパスには工学部に加えて産学官連携での研究や先端技術の社会実装を進める拠点も設置される。工学系の学生に加え企業やスタートアップも集まることが予想される。



本部機能を持つ森之宮キャンパスは事業費約 420 億円をかけて地上 13 階建て、延べ床面積約 7 万 7000 平方メートルの新棟を整備する予定。周辺には約 7 千人の学生や教職員が集う見通しだ。大阪府と大阪市は森之宮を大阪の「東西軸」の「東」と位置づけて、周辺の開発を進める。府・市では 1 期として位置づけるキャンパス整備と、1.5 期とする民間により宿泊施設や産学連携施設の整備を進める。12 月下旬にも事業者から活用の提案を求め、今後の事業者公募での参考とする。

森之宮では JR 西日本や大阪メトロの車庫を挟んで西側に位置する JR 西の大阪城公園駅とのアクセス向上のため、キャンパスから駅までを歩行者デッキで結ぶ計画。「コンサートなどでの活用が多い駅西側の大阪城ホールまでつながる動線をつくり、周辺一帯のにぎわい創出につなげたい」（公立大の関係者）と話す。

9 月 10 日、大阪市都市計画審議会で「大阪都市計画地区計画の決定」（森之宮北地区）について陳述した。私にとって、今年の忘れられない出来事のひとつだ。

「東西軸」というが、西の夢洲は万博・IR カジノ、東の森之宮は大学を起爆剤とした大規模開発。コロナ禍のなか、こんな開発を繰り返していいのかと陳述した。写真下は森之宮の大学（A 地区）を核とした再開発、スクラップ・アンド・ビルド計画だ。大学再編のゆくえとともに、森之宮北地区の再開発についても注視していきたい。



(2021 年 12 月 25 日)